



JICA ルサカ郡1次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト



感染予防管理ワークショップにおいて、マテロ病院からの参加者に対してアドバイスする日本人短期専門家 春山怜 医師（国立国際医療研究センター 国際医療協力局所属）

5つの総合病院、郡保健局、州保健局感染予防管理担当者と共に、初めての感染管理ワークショップを開催

JICA短期専門家（病院運営管理・感染予防管理）がマテロ総合病院のIPC活動を視察

フォト・フォーカスプロジェクト日本人長期専門家、短期専門家がJICAザンビア事務所長・所員を表敬訪問



5つの総合病院、郡保健局、州保健局感染管理担当者と共に初めての感染予防管理(IPC)ワークショップ開催

病院において、入院患者の予後に影響する合併症のうち、最も課題となるのが医療関連感染です。患者やその家族、病院に大きな負担をかけ、術後死亡を引き起こすことすらあります。州保健局、郡保健局の継続的な協力のもと、JICAプロジェクトは対象の5つの総合病院の感染管理担当者と共に初めての感染予防管理(IPC)ワークショップを開催しました。



Chongo医師と 法月チーフアドバイザーがワークショップ参加者に修了証を授与



ルサカ市内の Le Elementosホテルで開催されたIPCワークショップで議論するチパタ総合病院のIPCチーム



ルサカ市内の Le Elementosホテルで開催されたIPCワークショップで議論する郡保健局、州保健局のチーム



ルサカ市内の Le Elementosホテルで開催されたIPCワークショップで議論するチャワマ総合病院のIPCチーム



チレンジェ総合病院のIPC担当官であるMs. LidiaがチレンジェにおけるIPC活動の発表を行っている

標準 予防策は、感染予防管理(IPC)活動のコアであり、すべて病院においてすべての患者さんを対象に行われるべきであり、効果的なIPC対策の実施により、ほとんどの医療関連感染(HAIs)は予防することが可能です。

したがって、病院では患者や職員に感染が広がるリスクを、質の高い感染対策の実践することによって、最小限に抑えることが重要です。世界保健機関(WHO)は、『Minimum requirements for infection prevention and control programmes』において、手指衛生、個人防護具(PPE)の使用、針の安全な使用と破棄、再利用可能な医療機器や器具の滅菌、日常的な環境整備・消毒、咳エチケット、Aseptic non-touch technique (ANTT)、効果的な医療廃棄物処理、リネンとワクチン接種の適正な取り扱いなどの最低限の推奨をしています。ザンビアでは、薬剤耐性(AMR)を含む病院におけるIPC活動を強化していく必要があります。

IPCは、プロジェクトの成果2の活動であり、5つの病院の感染管理能力を強化し、課題を明らかにし、プロジェクトの活動を明確化するため、今回ルサカ市内の Le Elementos hotelに感染管理担当者が一同に集まり、初めてとなる戦略的IPCワークショップを開催しました。ワークショップのファシリテーターは、国立国際医療研究センター 国際医療協力局から派遣された短期専門家である春山怜医師でした。春山医師は、「それぞれの病院には、理想との間にギャップがあるものの、課題を認

識し、専門家を通じて提供されるJICAプロジェクトを活用しながら共に取り組むことは、病院にとって非常に良い機会である」と指摘しました。春山医師は、各病院を視察した結果を発表し、病院が抱えている現在の課題と解決策について率直に語り議論しました。そしてこのワークショップが成功裏に終了したことを共に喜びました。

州保健局長の代理としてスピーチした、IPCを所管する州保健局のChongo医師(健康促進・環境社会的決定要因担当)は、起こりうる医療関連感染を予防するために、すべての病院がIPC活動を強化するよう奨励しました。Chongo医師はさらに、20人の入院患者のうち1人は医療関連感染に感染しており、これらは簡単なWASH戦略を実践することにより予防・管理が可能であることを強調しました。州保健局は、理想的な環境衛生基準を達成するために、すべての施設においてIPC活動を実施するように支援することを再確認しました。最後に、州保健局長が、5つの総合病院でIPC活動を支援するために来日したJICAの専門家に感謝した上で、病院の感染管理チームが、病原体フリーゾーンを作るために努力するように促していることを述べました。

最後に、JICAプロジェクトのチーフアドバイザーである法月医師は、「今回のワークショップを通じて、プロジェクトのIPC活動における共通認識、合意が得られたことから、プロジェクトは、今回のワークショップのように5つの施設のIPCチームと郡保健局、州保健局と共にザンビアにおける病院のIPCプログラムの強化のために頑張っていく」と述べました。

JICA短期専門家(病院運営管理・感染予防管理)マテロ総合病院のIPC活動を視察

JICAプロジェクトは、2021年5月の開始以来、様々な分野の専門家をお迎えしています。1年間の調査機関を通じて、4つの大きな柱(病院運営管理、COVID-19対策を含む感染予防管理、医薬品および医療機器の管理、保健省・州保健局・郡保健局・病院との協調)に対する課題の現状把握、優先順位付けを行いプロジェクトの活動を決定するためです。

2022年2月には、IPC専門家として春山怜医師と病院運営管理専門家として横堀雄太医師をお迎えしました。二人の専門家は、プロジェクトの活動を支援し、病院運営管理の現在の構造、プロセス、理想とのギャップを分析し、IPC活動やプロジェクトの能力強化の具体的な方法を確認するために訪れました。この活動を効率的に行うため、二人の専門家は、マテロ総合病院を訪れ、IPC担当官のMr. Kankolotoと対話しました。二人は病院内をラウンドし、マテロにおける現状のIPCプログラムにおけるギャップについての認識を深めました。JICAプロジェクトでは、このような日本人専門家の訪問をもとに、病院運営管理能力を強化するために実施可能な活動についての提言を行っています。



横堀医師、法月医師、春山医師がマテロ総合病院のIPC担当官であるMr. Ezeckiel KankolotoとIPCラウンドに帯同し、現状把握をおこなっている

フォト・フォーカス：日本人長期専門家、短期専門家がJICAザンビア事務所長、所員を表敬訪問



プロジェクトをもっと知るために

連絡先

法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane, Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101, ZAMBIA

E-mail: cassiopeia.project.zm@gmail.com
Website: <https://www.jica.go.jp/project/english/zambia/023/index.html>